

「諏訪湖の浚渫課題」ワーキンググループについて

諏訪地域振興局企画振興課

1 概要等

諏訪湖創生ビジョンの改定において新たな取組として明記された「利水・生態系保全を目的とした浚渫」について、地域では、実施の要望がある一方、生態系への配慮などから慎重な意見もあるため、諏訪湖創生ビジョン推進会議にワーキンググループを設置。試行的な浚渫の可否、実施する場合の実施箇所や方法等について検討し、合意形成を図る。(約 60 名)

2 R6 までの検討状況等

R 5～R 6 で合計 7 回のワーキンググループを開催し、試行的な浚渫箇所を決定し実施

項目		R 5	R 6
場所		初島周辺	ヨットハーバー付近
箇所概要		観光船の航路となっており、観光客が多く訪れる諏訪湖の観光スポットの一つ。ヒシの繁茂箇所の一つでもある。	ヨットや水陸両用バス、船舶の出入口。砂地でありヒシ繁茂は少ない。
期待できる効果	利水	観光船の航路確保 ヒシの繁茂抑制による景観改善	船舶の航路確保。国スポ競技に向けた整備への知見蓄積(諏訪市へ提供予定)
	生態系保全	ヒシの異常繁茂抑制	-
結果	利水	2700 m ³ 浚渫(60m×70mの範囲で水深3m確保できるよう浚渫)。航路への支障は部分的に解消	(6年度内着工については、現在実施結果を次回WGに向け取りまとめ中。)
	生態系保全	浚渫前後で底生生物の出現種、個体数に大きな変化は見られない 水草は減少。主体はヒシ(浮遊植物)からマツモ等(沈水植物)に変化	(事前調査では流入河川付近ということもあり、多種多様な生物が確認された。次回WGに向け取りまとめ中)

3 現時点の課題

利水	浚渫後、一定程度の土砂堆積が見られる。効果の持続性(堆積速度)の検証が必要
生態系	生態系の影響がどの程度であれば影響が少ないと判断するか、諏訪湖に生息する希少種などの生息分布の把握が必要
その他	必要最低限かつ効率的な浚渫方法(工法、浚渫場所、費用等)の検討が必要

4 令和7年度の予定

令和6年度の実績(浚渫工事、生態系調査等)、令和5年度浚渫工事箇所のその後の状況(土砂の堆積状況)をワーキンググループで共有し、R7年度の試行的な浚渫工事に関する検討、合意形成を図る。